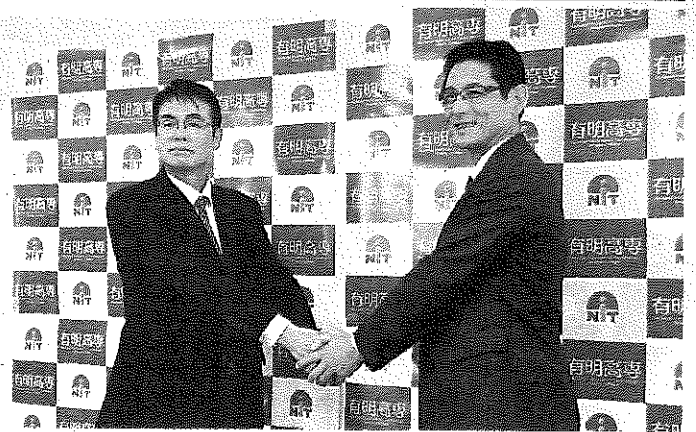


有明高専

「人工知能」の寄付講座

佐賀市の情報システム会社 人材育成へ協力

大牟田市の有明高専は、情報システム開発の木村情報技術(佐賀市)と人工知能(AI)分野の寄付講座開設に合意し、7日、同校で会見を開いた。高専の寄付講座は九州で初めて。当面、2年の予定で、同社の木村隆夫社長は「ビジネスに活用できる共同研究を進め、優秀な人材輩出にもつなげたい」と述べた。



人工知能(AI)を学ぶ寄付講座の開設に合意した木村情報技術の木村隆夫社長(右)と有明高専の高橋薫校長
=大牟田市

同社は、米IBMのAIを使った医薬用システムなどを開発。寄付講座は同分野での人材育成や新産業創出が狙い。自社の研究者を客員教授として派遣するほか、高専が新たに採用する特命助教の人数の一部として、年間1千万円を寄付する。講座では当面、専攻科の学生を対象にAIや、あらゆるものがインターネットにつながる「モノのインターネット(M2M)」の基礎知識を指導し、ビジネスへの活用法の研究

にもつなげる。

会見で、木村社長は「日本では始まったばかりのAIを応用したビジネスの現場で、学生の発想力を生かしていきたい」。高橋薫校

長は「寄付講座を通して近い将来、わが校から起業する人材が出てくることを期待したい」と話した。

(原大祐)